

市場の動向

【金利】

4月末に1.5%台だった長期金利は、5月末には1.7%台後半に上昇しました。  
4月に引き続いて5月も、3月までと比較すると米国の金融不安が後退したことや、原油価格の高騰等を受けたインフレ懸念を背景に、長期金利は上昇しました。

【外国為替】

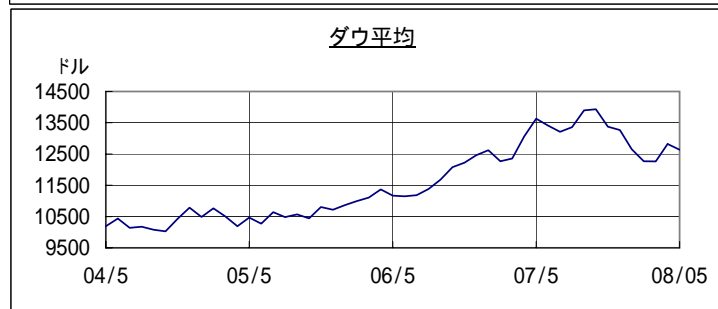
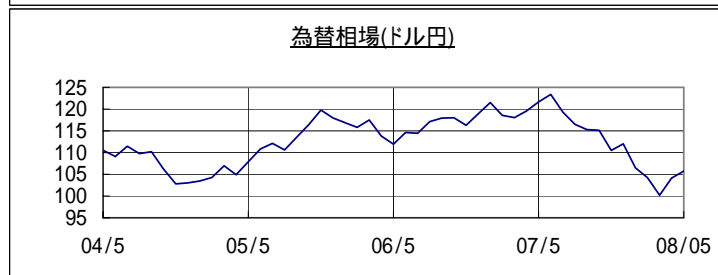
4月末に104円台だったドル円は、5月末には105円台へとドル高円安となりました。ユーロ円も162円台から164円台へとユーロ高円安となりました。ドルはユーロに対して上昇しました。  
4月に引き続いて5月も、3月までと比較すると金融不安が後退し、米国の利下げ観測が後退したことを受けて、ドルが買い戻されました。

【日本株式】

4月末に13,849円だった日経平均は、5月末には14,338円と3.5%上昇しました。  
4月に引き続いて5月も、3月までと比較すると米国の金融不安が後退したことや、ドル高円安が進んだこと等を背景に、日経平均は上昇しました。

【外国株式】

4月末から5月末にかけて、NYダウは1.4%下落し、NASDAQは4.6%上昇しました。欧州市場は前月とほぼ同水準でした。  
4月に上昇したNYダウは、5月には反落しました。原油価格の上昇が上値をおさえました。



## お客様にご確認いただきたい事項

### ご負担いただく費用などについてご確認ください。

お払込みいただいた保険料のうち、その一部はご契約時およびご契約後に下記の費用等に充てられ、それらを除いた金額が特別勘定で運用されます。

保険契約の締結、維持に係る費用

特別勘定の運用に係る費用

死亡保障などに係る費用

控除される費用は、契約年齢・性別・保険期間・保険料払込期間等により、契約ごとに異なるとともに、保険期間中変動します。そのため、費用の合計額や計算方法を表示することはできませんので、ご了承ください。

契約日から10年以内、かつ保険料払込期間中に解約・減額された場合、解約日の積立金額から経過年数に応じた所定の金額（解約控除）を控除した金額が解約返戻金額となります。

上記期間経過後は、積立金額と解約返戻金額は同額となります。保険料払込方法が一時払の場合は、解約控除は発生しません。

### 運用リスクについてご確認ください。

変額保険は、保険金額や解約返戻金額が特別勘定資産の運用実績に基づいて増減する仕組みの生命保険です。

特別勘定資産は、日本の株式や公社債および外国の株式や公社債などで運用されます。そのため、株価や公社債価格の変動リスク、為替の変動リスク、信用リスクなどの運用リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる解約返戻金額や有期型における満期保険金額が払い込まれた保険料の合計額を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。なお、各特別勘定の運用方法は、以下のとおりです。

国際型 外国の株式を中心に一部日本の株式を組入れ運用します。

株式型 日本の株式を中心に運用します。

総合型 日本の公社債・外国の公社債を中心に、一部日本の株式および外国の株式を組入れ運用します。

各特別勘定への繰入割合や積立金の構成割合を変更した場合には、選択した特別勘定の種類によっては運用対象や運用リスクの種類・大きさが異なることとなりますので、ご注意ください。

変額保険の主契約の死亡・高度障害保険金は、契約時に定めた基本保険金額が最低保証されますが、解約返戻金および有期型における満期保険金は最低保証されません。

詳しくは「変額保険ご検討の手引（特別勘定のしおり）」をごらんください。